

手を離なく親と子



令和4年1月 発行:登別市教育委員会・学校教育グループ「子育てコラム」 No.5

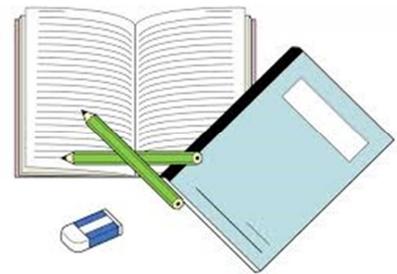
「勉強は大切」でも「勉強は嫌い」

今年度実施した全国学力・学習状況調査について、国立教育政策研究所がまとめた質問紙調査の結果に、下のような興味深い結果を見ることができます。

この表は、質問事項に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した全国の児童生徒の割合です。

質問事項	小学校（全国）	中学校（全国）
国語の勉強は大切だと思いますか	93.2%	91.6%
国語の勉強は好きですか	58.6%	60.8%
算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	93.9%	84.3%
算数（数学）の勉強は好きですか	67.8%	59.3%

国語の勉強について、小中学生とも9割以上が大切であると考えていますが、好きと回答した小中学生は6割前後となっています。また、算数の勉強については、小中学生の8割から9割以上が大切であると考えていますが、好きと回答した割合は6割近くから6割後半となっています。



一方、登別市の状況については、次のようになっており、概ね全国と同様の結果といえます。

質 問 事 項	小学校（登別市）	中学校（登別市）
国語の勉強は大切だと思いますか	94.5%	89.7%
国語の勉強は好きですか	62.3%	56.3%
算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	94.1%	84.9%
算数（数学）の勉強は好きですか	68.3%	63.5%

これらの結果から、《子どもたちは、「勉強は大切」と考えていても、目の前の勉強を好きになれない。だから、学校でも家庭でも熱心に勉強しないのではないか。》という予測が立てられます。もし、このような状況であれば、興味・関心・意欲がわからないので、勉強をしない日が続き、授業内容を理解することができずますます意欲を失くしてしまいます。小学校での基礎・基本が定着していないと、中学校の授業は一層難しいものとなり、さらにそう感じたときは、すでにかなり手遅れになった状態となっている場合もあります。

本市の各小中学校では、児童生徒の興味・関心・意欲を引き出しながら、学ぶことの楽しさを実感させるために、学習指導方法の工夫・改善に取り組んでいます。学校と家庭を両輪として、一人一人の児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために、家庭においても、次の点に留意しながら、わが子の学習に対する関心・意欲の喚起に取り組んでいただきたいと思います。

家庭でも「学びの環境」を整えましょう！！

1 学習習慣の定着を目指す

～基本的な学習習慣やリズムのある生活習慣を～

2 家庭の学習環境を整える

～「決まった場所」で

「一定時間」集中して～

3 親子のかかわり方を大切にする

～一緒の空間で「命令」ではなく

「共感」を大切に～

